

ダイセキを取り巻く外部環境

私たちは、創業当時から今求められていること、そして将来求められることを見極めて事業を展開してきました。VUCA^{※1}な現代にあっても、私たちのその姿勢は変わりません。地球環境問題がビジネスにおける重要な課題に変化する中、ダイセキは環境創造企業としてリスクや機会を見極めながら持続可能な社会の実現を目指します。

01 影響のある外部環境因子

政治

Politics

- 日本国内でのGX-ETS制度開始などカーボンニュートラル政策の規制強化
- 「循環経済への移行加速化パッケージ」の発表などサーキュラーエコノミーへの期待の高まり
- 国際情勢の不安定化による経済安全保障上のリスク増大

経済

Economy

- 国内製造業の停滞・空洞化
- サステナビリティ意識の高まりによるカーボンニュートラル・環境負荷低減に向けた活動の要求
- 為替の円安ドル高水準の常態化による低コストな資源への需要の高まり
- サーキュラーエコノミーへの移行

社会

Society

- SDGsの浸透による環境・社会問題への関心の高まり
- 少子高齢化や価値観の変化を見据えた人的資本の必要性の高まり
- 反ESGなどをはじめとした価値観の多様化

技術

Technology

- 他分野・異分野連携によるイノベーション創出への期待の高まり
- サステナビリティ関連技術の需要の増大と複雑化・高難度化

外部環境キーワード

- ◎ 人的・知的・社会関係資本
- ◎ カーボンニュートラル
- ◎ サーキュラーエコノミー

02 想定リスク

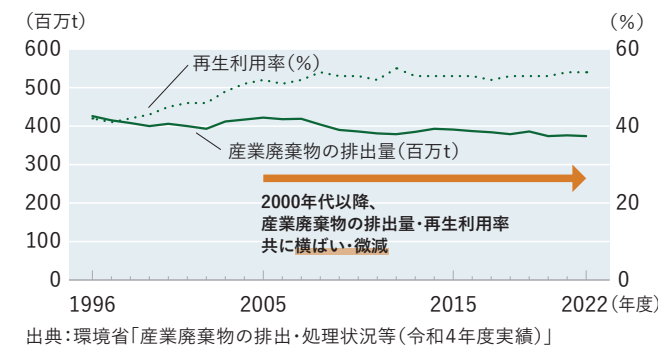
国内の製造業の縮小に伴う
産廃処理業市場の縮小

最先端企業を中心とした
カスケードリサイクル^{※2}のニーズの低下

産廃の排出事業者による
産廃処理の内製化

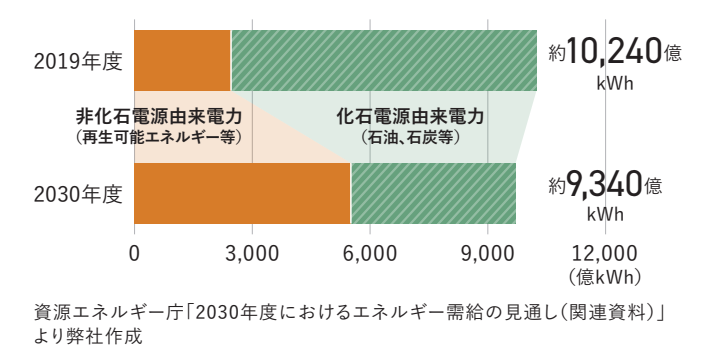
産業廃棄物の排出量と再生利用率の推移

製造業縮小や環境意識の高まりにより産業廃棄物量は横ばい～微減の傾向が続く見込みです。産業廃棄物の再生利用率も近年横ばいで処理難度が高まっています。



電源構成の実績と目標

GX推進戦略などが閣議決定され、国内での非化石エネルギーへの移行が加速する見込みです。



03 機会と対応策

カーボンニュートラル対応に
課題感を持つ企業の増加

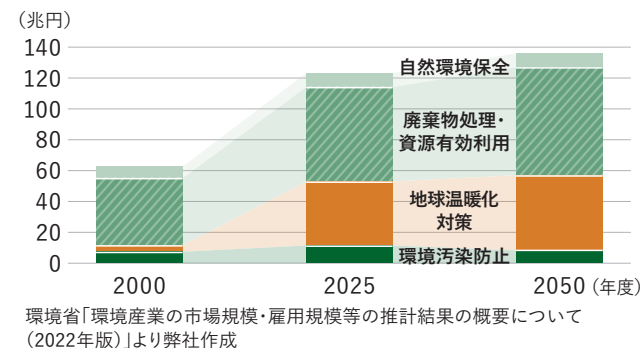
産廃処理に伴う
温室効果ガス排出量削減サービスのニーズ対応

最先端企業の
サーキュラーエコノミーへの意識の高まり

サーキュラーエコノミーの
ニーズ対応

市場規模

カーボンニュートラルを含む地球温暖化対策分野は、今後も廃棄物処理・資源有効利用分野と並び環境ビジネスの中でも大きな市場規模を維持・拡大する見通しです。



サーキュラーエコノミーの市場規模（日本政府試算）

サーキュラーエコノミー市場は今後もさらに拡大し、一大産業となる見通しです。

2020年 50兆円

2030年 80兆円

2050年 120兆円

出典：経済産業省・産業技術環境局「成長志向型の資源自律経済の確立」

04 重点取組

最先端企業の求めるカーボンニュートラルと
サーキュラーエコノミーのニーズへの対応

環境保全と環境創造をキーワードとする
経営戦略の見直し

カーボンニュートラルのニーズの高まりを追い風として、温室効果ガス排出量を削減する産廃処理サービスを拡大します。また最先端企業が求めるサーキュラーエコノミーのニーズに応えられるようにグループ内の連携と外部パートナーとのアライアンス強化により、バリューチェーンを構築します。このように外部環境の変化を見据えて経営戦略の見直しと事業戦略・人財戦略等の策定を進めていきます。

※1 VUCA:「Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)」の頭文字を取った造語で、予測困難な状況を表す
※2 カスケードリサイクル:リサイクルによって品質が低下してしまう素材を、段階的に異なる製品にリサイクルしていく方法